

< 様式 2 > 総合農業技術センター 試験研究課題事前評価表
(総合農業技術センター課題評価委員会)

試験・研究課題名

大課題名 原油・資材高騰に対応した低コスト生産技術の確立(H20～)

小課題名 リン酸、加里の施肥効率を高める肥培管理技術の確立(H22～25)

担当者名：長坂克彦 山崎修平 望月久美子

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	4	化学肥料が高騰していること及び環境保全等の視点から妥当な課題である。将来を見据えた課題であり、ニーズは高い。
2 課題の新規性、独創性	4	局所施肥法や適正施用量の確立だけでは新規性に乏しいが、リン酸・加里の体系的な減肥技術の開発には新規性がある。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4	現場で直ぐに使える技術の確立を目途に取り組むべきである。また、食味や品質等への影響についても検証する必要がある。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4	長期間減肥を継続した場合の影響についても確認が必要である。手法及び技術における難度は、高くない。
5 成果の期待度	4	多肥栽培となりやすい果菜類などにおいて、減肥の指針となり、成果が期待できる。
総合評価	4	社会ニーズを受けて、減肥技術の開発を視点に課題を進めることが望ましい。また、普及性を念頭においた課題推進をお願いしたい。

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

試験研究結果は、早期に活用できるよう技術普及部と連携し、単年度成績についても生産現場へ情報提供していく。また、減肥技術を安心して活用できるよう、調査項目については、収量や養分吸収量だけでなく、品質や食味等を含めて試験を行うこととした。

< 様式 2 > 総合農業技術センター 試験研究課題事前評価表
(総合農業技術センター課題評価委員会)

試験・研究課題名

大課題名 環境保全型農業の確立

小課題名 果菜類の有機栽培と土壌改善の技術実証(H22～24)

担当者名 赤池一彦 小澤明子 石川寛人 長坂克彦

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	4	有機栽培の安定的な生産に結びつく課題であり、社会ニーズは高い。有機栽培にかかわる公的な施肥データが少ない中で、大切な課題である。
2 課題の新規性、独創性	4	果菜類の有機栽培は、難度が高く、独創性が求められる。病害に強い品種選定などの努力が肝要である。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4	慣行栽培と比較して、有機栽培については労力や収量性等を視点に評価する必要もある。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4	長期間栽培する果菜類においては、追肥等の作業についても考慮する必要がある。多地域でのデータ取りが大切である。
5 成果の期待度	4	有機栽培がこれまで以上に取り組みやすい技術となることが期待できる。
総合評価	4	有機農業を推進する上で、重要な知見が得られるものと期待する。しかし、一般的普及性には疑問が残る。

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

公的な試験研究機関による有機栽培への取り組みは始まったばかりであり、全国的にも研究事例が乏しい。本研究によって、普遍性のあるデータを取得・蓄積しながら、現場にもフィードバックできるよう努めたい。特に、本試験で扱う果菜類は栽培難易度が高いため、生産性向上や有機肥料の利用方法などの点に留意しながら試験を進めたい。

< 様式 2 > 総合農業技術センター 試験研究課題事前評価表
(総合農業技術センター課題評価委員会)

試験・研究課題名

大課題名 鳥獣害防止策の検証(H22～24)

小課題名 電気刺激による超低コスト・省力化鳥獣害防止技術の開発(H22～24)

担当者名： 本田 剛 桑田 大

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	5	鳥獣被害対策について、農家の関心は高く、被害防止技術の開発は重要な課題である。
2 課題の新規性、独創性	4	柵における資材の検討や電気刺激による鳥害防止技術には新規性が認められる。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4	資材や設置コストの問題点等実用化を視点に入れた課題進行が大切である。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4	手法や技術は妥当と思われるが、被害防止施設の有効期間や設置時期についても検証が必要である。
5 成果の期待度	4	被害防止施設の設置にかかわる労力やコストが重要なポイントとなる。成果に期待したい。
総合評価	4	中山間農業の維持においては、喫緊の課題であり、課題化の必要性は高い。安価で容易に設置できる実用性の高い被害防止対策技術の開発を期待したい。

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

鳥害・獣害共に、コストや設置労力の削減を重視した技術を開発することとしたい。特に鳥害については、実用性を高める上で労力のかからないことが重要であることから、鳥類の行動調査等を行い、行動特性に基づいた有効な手法の確立を目指す。

開発技術の効果やその持続性、設置時期等については3年間の連続的な実証試験を行うことで明らかにしていく。

< 様式 2 > 総合農業技術センター 試験研究課題事前評価表
(総合農業技術センター課題評価委員会)

試験・研究課題名

大課題名 作物・野菜・花き病害虫の防除技術の改善(54～)

小課題名 シクラメン萎凋症の防除対策技術の確立(H22～24)

担当者名：舟久保太一 山口優子

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	5	県においてはシクラメン等鉢花は重要なブランド産物であり、これらの新病害防除技術の開発は喫緊の課題である。
2 課題の新規性、独創性	4	施設内での病原菌汚染実態の把握及び防除薬剤の検討は新規性がある。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4	総合的防除モデルの作成においては農家が受け入れやすい技術となる必要がある。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4	生産現場の状況を踏まえた取り組みとなっており、手法及び技術上の問題は見あたらない。
5 成果の期待度	4	早急な対策技術の組み立てが必要であり、知見の得られたものは順次、現場へ情報提供することが望まれる。
総合評価	4	生産農家の実態を踏まえた技術開発であり、早急な対策技術の確立とその普及が望まれる。

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

総合的防除モデルの作成については、技術普及部や農家と随時情報交換しながら、効果が高くかつ農家を実施しやすい技術を有機的に組み合わせたモデルの作成を目指します。また、得られた知見は、普及と連携し、早急に生産現場に伝達し、被害軽減に向けた指導に活用していきたい。